

2016年1月22日

各 位

三井住友ファイナンス&リース株式会社
株式会社トクヤマ

水素利用の実証事業におけるリース方式による設備導入について

三井住友ファイナンス&リース株式会社（取締役社長：川村 嘉則、以下「SMFL」）と株式会社トクヤマ（代表取締役 社長執行役員：横田 浩、以下「トクヤマ」）は水素利用の実証事業における設備についてリース契約を締結しました。また、SMFLと山口県周南市は水素利用の実証事業における設備について賃貸借契約を締結しました。

トクヤマは、環境省が進める「平成27年度 地域連携・低炭素水素技術実証事業」における実証受託の代表事業者となり、自社の苛性ソーダ工場から発生する未利用副生水素^(注)を回収し、近隣や周辺地域の純水素型燃料電池や燃料電池自動車に供給します。

SMFLは同事業において、トクヤマ向けに水素貯蔵設備及び水素供給設備をリースします。また、SMFLは同実証受託の共同実施者である周南市向けに水素供給設備及び純水素型燃料電池をリースします。未利用副生水素を活用する同事業において、水素利用の実証設備のリース方式による導入は日本初のケースになります。

これまでもトクヤマは、苛性ソーダ工場から発生する水素の特性である高純度な副生水素を活かし、液化水素ステーション向けの水素の供給を行っており、太陽光発電での水素生成や純水素型燃料電池への水素供給といった実証実験にも数多く取り組んでおります。

また、山口県周南地域では、周南コンビナートの立地を背景とした国内最大規模の高純度な副生水素の供給能力を有した地域特性を活かし、本実証事業の他にも卸売市場での燃料電池フォークリフトの利用実証や動物園での純水素型燃料電池の利用実証等、水素社会の実現に向けた先進的な取組が数多く行なわれております。

なお、SMFLは移動式水素ステーション、スマート水素ステーションの水素関連設備にリースによるファイナンスサービスを提供することにより、水素関連設備の普及をサポートしています。

水素は、利用段階において二酸化炭素を排出せず、効率的なエネルギー利用や再エネルギー貯蔵等に活用できるなど地球温暖化対策として重要なエネルギーです。トクヤマ、SMFLは低炭素な水素サプライチェーンの普及に資するとともに地域での水素利用の推進に貢献できるように今後とも取り組んでまいります。

(注) 副生水素は、製鉄所、化学工場等からの副産物として生成される水素です。
苛性ソーダの製造プロセスで発生する水素は高純度でコスト面でも優れています。

以上

<お問い合わせ先>

三井住友ファイナンス&リース株式会社

広報IR推進室 五十嵐 TEL 03-5219-6334

株式会社トクヤマ

広報・IRグループ 青木 TEL 03-6205-4832

未利用水素の回収と利活用推進事業について

本事業は、環境省が進める「地方自治体と連携し、地域の特性を活かした、低炭素化された水素サプライチェーンの構築・検証」に、トクヤマが提案した「苛性ソーダ由来の未利用な高純度副生水素を活用した地産池消・地域間連携モデルの構築」が採択されての実施案件です。

以下に事業概要を記載します。

実施予定年度；平成 27 年度～平成 31 年度（5 年間）

コンソーシアムメンバー；(株)トクヤマ（代表申請者）、東ソー(株)、山口県、周南市、下関市
事業費；約 15 億円（5 年間）

役割；トクヤマは全体総括、未利用副生水素の回収、水素の直接供給

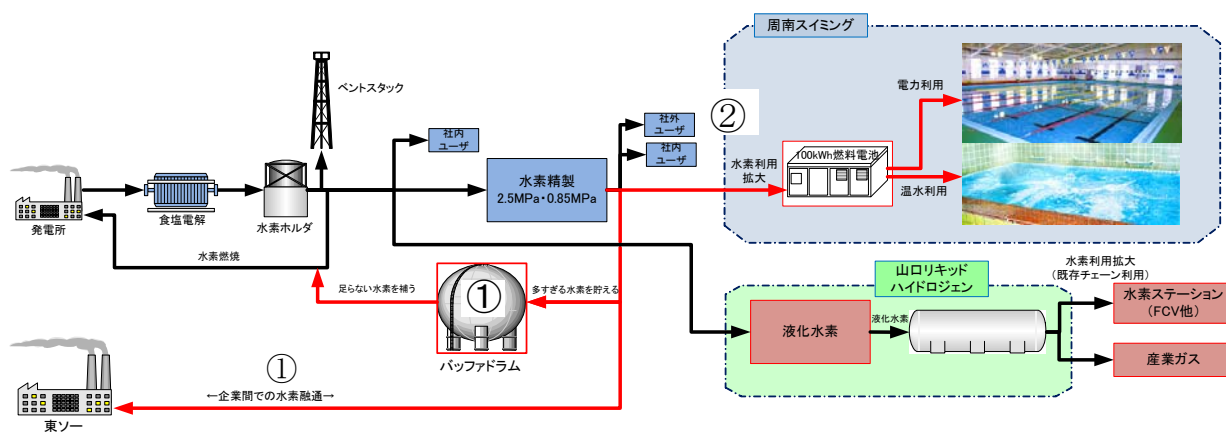
トクヤマが実施する範囲の概要

①未利用な副生水素の回収・利用システムの構築

- ・水素バッファドラムの設置（2016 年度完成予定）
- ・東ソー株式会社との水素導管敷設（2017 年度の計画）

②水素の直接供給による純水素型燃料電池（FC）の運用

- ・周南スイミングクラブへ民間活用実証用燃料電池の設置 100kw（2016 年度完成予定）



※赤線部分が今回の実証試験の対象範囲ですが、本リース方式での導入契約には、東ソー株式会社との水素導管施設の計画は含まれておりません。

以上